

幸田町

シニア・シルバー世代支援実態調査

実施報告書

2020 年 2 月 28 日

目次

本調査の目的	3
Ⅰ．調査の概要および方法	
1. シニア向けアンケート	4
2. 事業者向けアンケート	4
Ⅱ．調査の結果	
1. シニア向けアンケート	5
2. 事業者向けアンケート	14
総括	18

本調査の目的

急速に進む少子高齢化を背景として、我が国は本格的な「人口減少時代」に突入している。中でも、生産年齢人口の減少による地方経済の衰退が懸念されている。しかしながら、本調査の対象である幸田町は、愛知県の三河地方南部に位置し、積極的な企業誘致や土地区画整理、大規模な民間住宅開発などにより人口は増加を続けている。平成 30 年 4 月時点で 41,296 人、平成 31 年（令和元年）4 月時点で 42,126 人であり、830 人の増加（対前年比 2.0% 増加）となっている。また、総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）は、平成 24 年の 17.88% に対し、令和元年 10 月は 20.99% であり、3.11% の増加がみられる。なお、愛知県の高齢化率は 25%、全国の高齢化率は平成 29 年 10 月時点で 27.7% となっており、県内においても、また全国的に見ても、幸田町は若い町であるといえる。

そうした日本国内にあって珍しい状況におかれている幸田町ではあるが、目下の課題としては企業誘致や住宅開発政策が一段落した後の人口減少局面に備え、既存の中小・零細企業の存続を図ることや、高齢化に伴う社会福祉への対応、災害時等における社会的弱者へのスムーズな支援があげられる。

これらの状況を踏まえ、幸田町では「幸田町産業活性化支援事業補助金」などを活用し、官民一体となった地域産業の創造と発展に向けた取り組みをすべく、大学や金融機関などと連携した産業政策や、若者および女性をはじめとした企業・創業をする町民への支援等の商工政策に重点を置いてきた一方で、これから増加するであろう活力ある高年齢者向けの支援が比較的手薄であった。そこで本調査では、本町民のうち支援の対象として想定している 60 歳前後のシニア層向けキャリアプランのニーズ（雇用延長や新規起業、地域活動への参画など）を把握するとともに、受け入れ側となる町内事業所の高年齢者雇用の現状を汲み取ることを目的としている。

本調査で明らかになってきた町内の課題やニーズに対応する形で、高年齢者の立場を中心として必要な支援メニューを迅速に構築し、町内の雇用状況はもちろん、福祉面や地域活動などを包括的に含めた住まう人それぞれの満足度が向上するための活動を推進していく。

I. 調査の概要および方法

1. シニア向けアンケート

今回の調査対象は大きく2種類であり、町内に在住するシニア・シルバー世代向けのニーズ調査、町内の事業者を対象にした実態調査である。

シニア・シルバー世代向けニーズ調査の概要は以下の通りである。

【方 法】

幸田町内の対象者に対し、郵送でアンケート調査票を配布。

記入後に返送いただく形で回収を行った。

【対象者】

実施期間内に幸田町に在住する55～70歳の男女2,000名。

【実施期間】

2019年12月上旬より調査票を配布、2020年1月中に到着した回答をもとに集計を実施。

2. 事業者向けアンケート

事業者向け実態調査の概要は以下の通りである。

【方 法】

幸田町内の対象者に対し、郵送でアンケート調査票を配布。

記入後に返送いただく形で回収を行った。

【対象者】

実施期間内に幸田町に事業所を構える事業者のうち、業種等に関わらず200件を無作為に抽出。

【実施期間】

2020年1月中旬より調査票を配布、1月中に到着した回答をもとに集計を実施。

II. 調査の結果

1. シニア向けアンケート

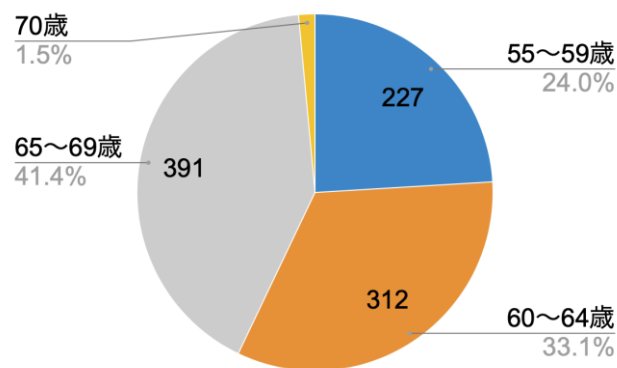
【回答数/調査対象数（回収率）】

950 件 / 2,000 件 （47.5 %）

【回答集計結果】

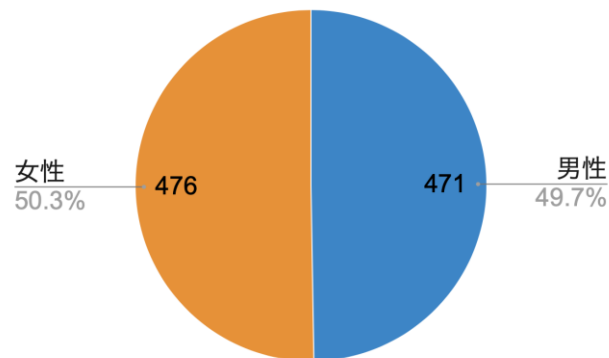
問 1 回答者の属性

①回答者の年齢



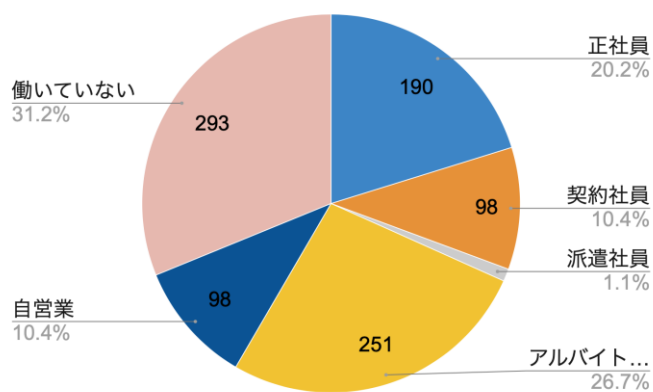
55～59 歳	227 (24.0%)
60～64 歳	312 (33.1%)
65～69 歳	391 (41.4%)
70 歳	14 (1.5%)
有効回答数/有効回答率	944/99.4%

②回答者の性別



男性	471 (49.7%)
女性	476 (50.3%)
有効回答数/有効回答率	947/99.7%

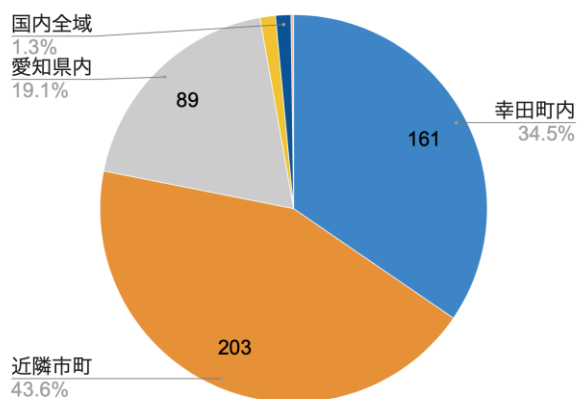
問 2 現在の雇用形態



正社員	190 (20.2%)
契約社員	98 (10.4%)
派遣社員	10 (1.1%)
アルバイト・パート	251 (26.7%)
自営業	98 (10.4%)
働いていない	293 (31.2%)
有効回答数/有効回答率	940/98.9%

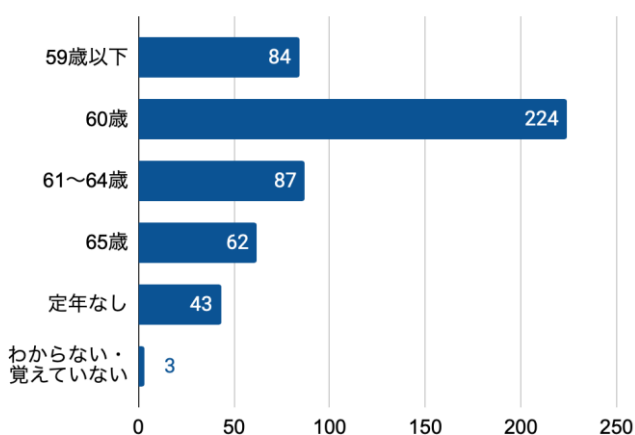
問 3 定年退職時の状況

①定年退職時就業先の所在地



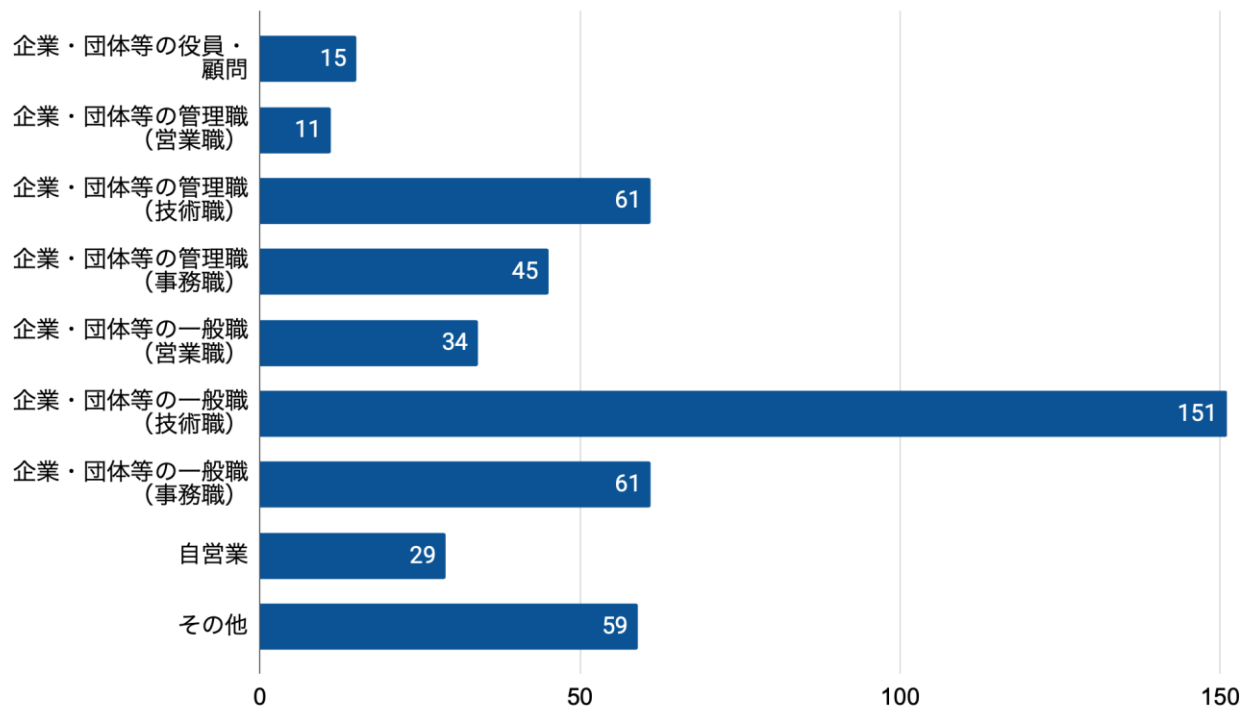
幸田町内	161 (34.5%)
近隣市町 (岡崎市など)	203 (43.6%)
愛知県内 (名古屋市など)	89 (19.1%)
近隣府県 (静岡県など)	6 (1.3%)
国内全域	6 (1.3%)
海外	1 (0.2%)
有効回答数/有効回答率	466/49.1%

②定年退職時の年齢



59歳以下	84 (16.7%)
60歳	224 (44.5%)
61～64歳	87 (17.3%)
65歳	62 (12.3%)
定年なし	43 (8.5%)
わからない・覚えていない	3 (0.6%)
有効回答数/有効回答率	503/52.9%

③定年退職時の職種



企業・団体等の役員・顧問	15 (3.2%)
企業・団体等の管理職 (営業職)	11 (2.4%)
企業・団体等の管理職 (技術職)	61 (13.1%)
企業・団体等の管理職 (事務職)	45 (9.7%)
企業・団体等の一般職 (営業職)	34 (7.3%)
企業・団体等の一般職 (技術職)	151 (32.4%)
企業・団体等の一般職 (事務職)	61 (13.1%)
自営業	29 (6.2%)
その他	59 (12.7%)
有効回答数/有効回答率	466/49.1%

(その他の回答)

● 専門職にかかるもの

・ 看護師

・ 保育士

・ 教員

・ 公務員

● 雇用形態にかかるもの

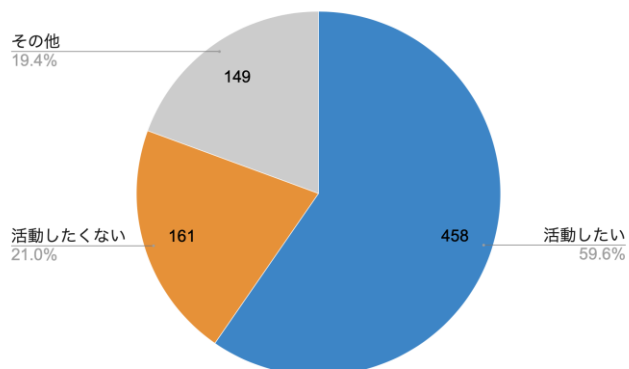
・ パート

・ 嘱託職員

・ 内職

問 4 定年退職後

①定年退職後の活動



活動したい	458 (59.6%)
活動したくない	161 (21.0%)
その他	149 (19.4%)
有効回答数/有効回答率	768/80.8%

(その他の回答)

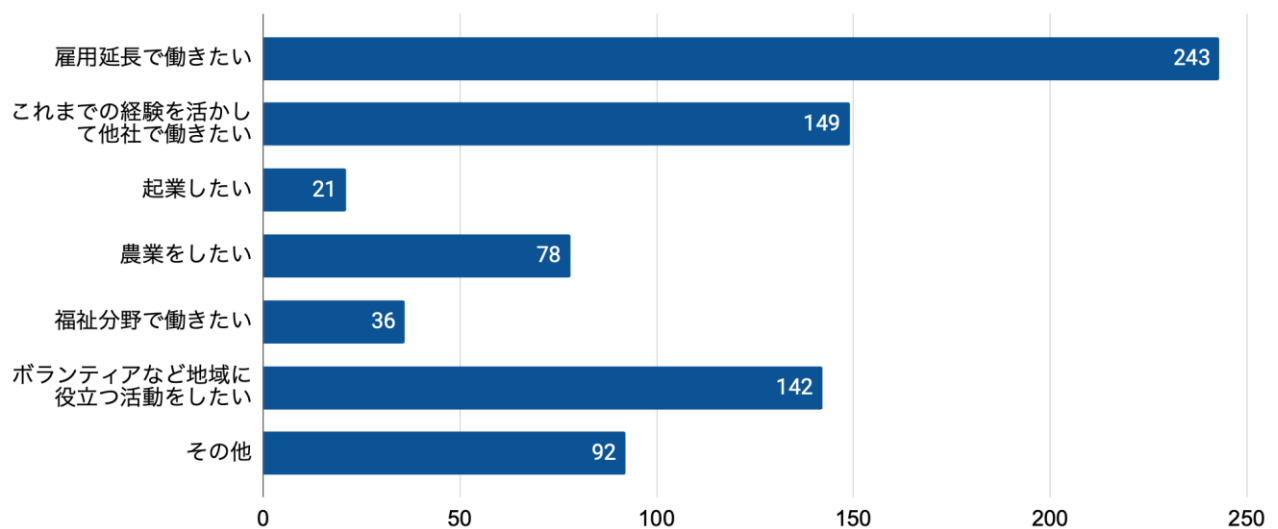
●未定

- ・現時点ではわからない
- ・健康であれば活動したいが、その時に考える
- ・週3日くらいで活動したい

●他の理由

- ・介護のため現在は難しい
- ・孫の世話
- ・病院に通院中である
- ・身体に不自由なところがあるため難しい

②やりたい仕事（複数回答可）



雇用延長で働きたい	243
これまでの経験を活かして他社で働きたい	149
起業したい	21
農業をしたい	78
福祉分野で働きたい	36
ボランティアなど地域に役立つ活動をしたい	142
その他	92
有効回答数	761

(その他の回答)

●起業

- ・雑貨販売
- ・行政・法律関係
- ・オンラインショップ
- ・洋服の直し

●農業

- ・野菜づくりを行っている
- ・米
- ・筆柿
- ・バナナ

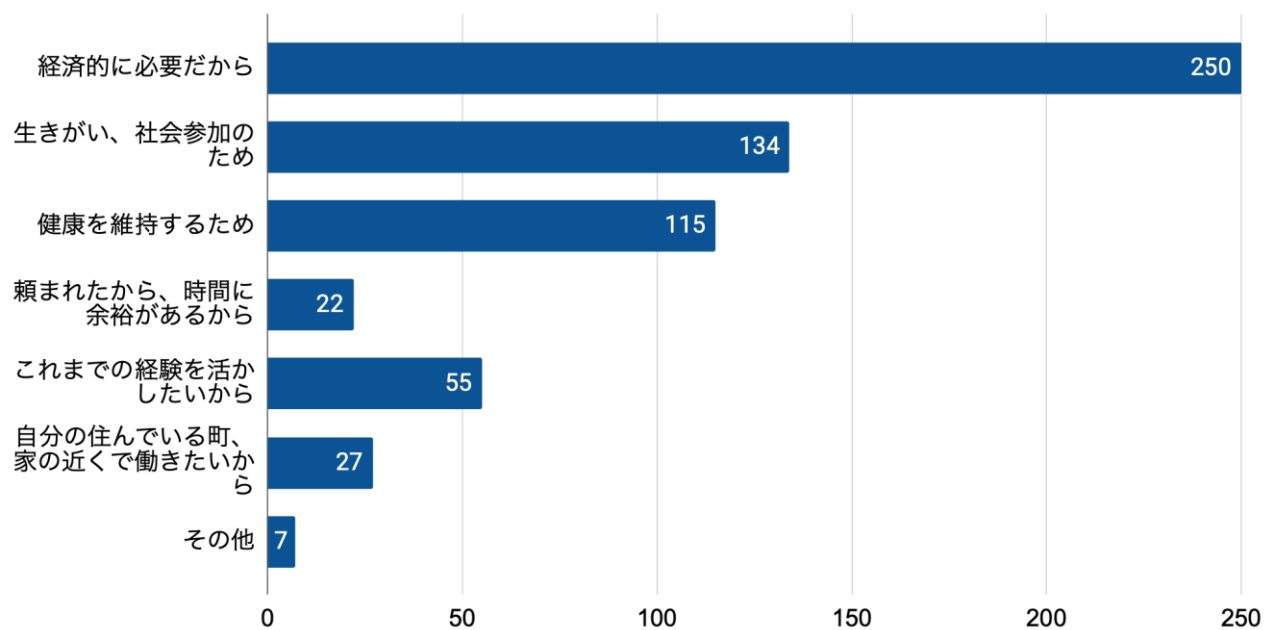
●福祉

- ・介護
- ・医療

●その他

- ・今していることを続けていく
- ・シルバー人材で活動中
- ・運動や体作り
- ・1～2年はゆっくりしたい
- ・移住して田舎暮らし

③活動したい理由（複数回答可）

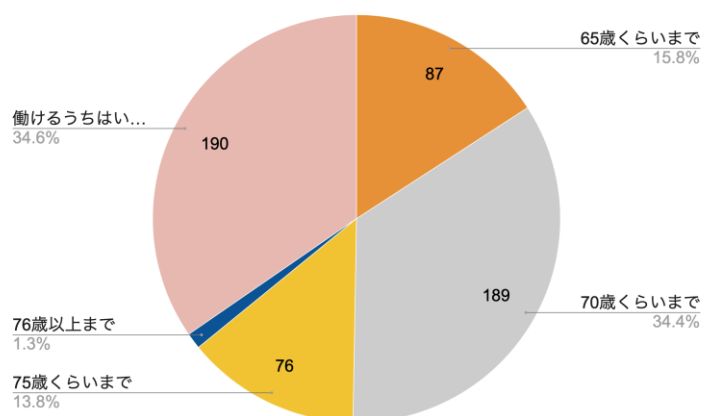


経済的に必要だから	250
生きがい、社会参加のため	134
健康を維持するため	115
頼まれたから、時間に余裕があるから	22
これまでの経験を活かしたいから	55
自分の住んでいる町、家の近くで働きたいから	27
その他	7
有効回答数	610

（その他の回答）

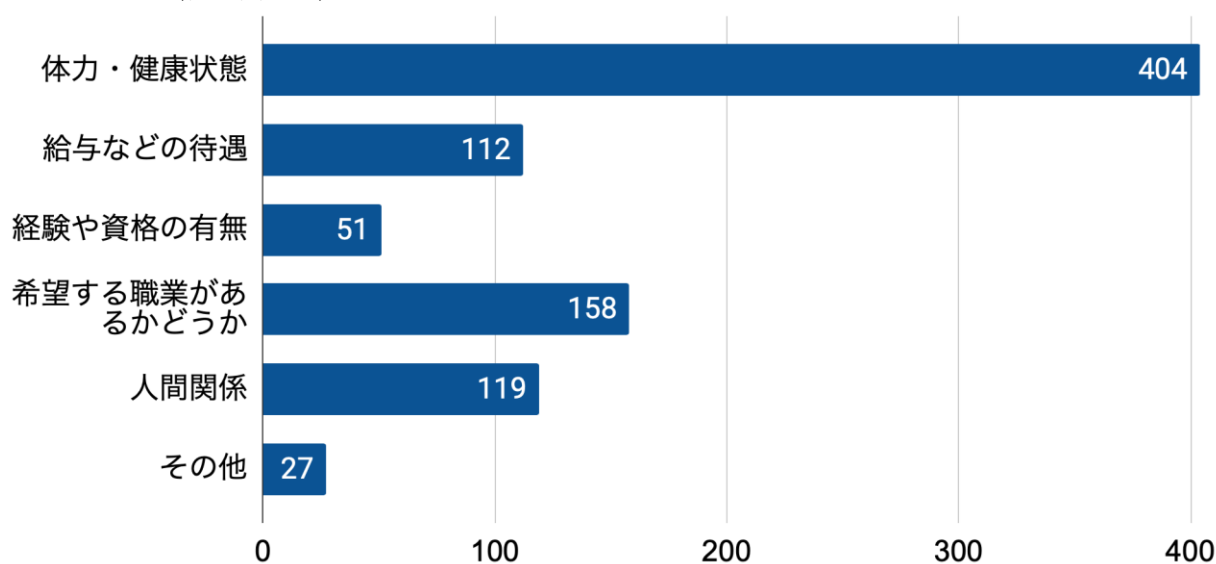
- ・ボランティアでバザー用の小物を作っている。少しでも役に立ちたい。
- ・体力的にきつい、高齢の親との同居で外出が不安。

④いつまで働きたいか



60 歳くらいまで	0 (0.0%)
65 歳くらいまで	87 (15.8%)
70 歳くらいまで	189 (34.4%)
75 歳くらいまで	76 (13.8%)
76 歳以上まで	7 (1.3%)
働けるうちはいつまでも	190 (34.6%)
有効回答数/有効回答率	549/57.8%

⑤働く上での不安（複数回答可）

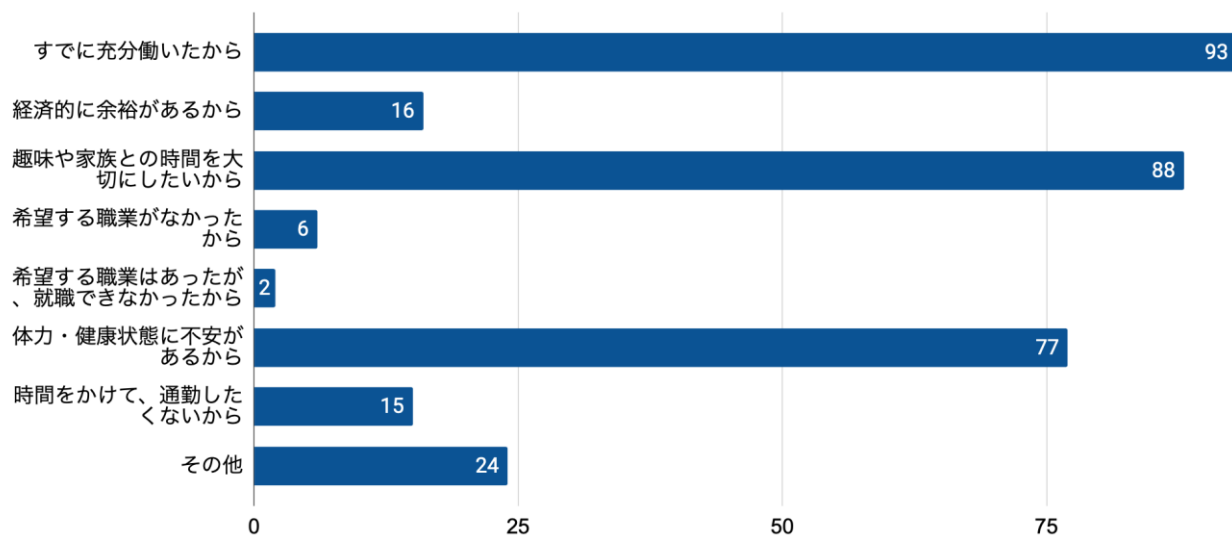


体力・健康状態	404
給与などの待遇	112
経験や資格の有無	51
希望する職種があるかどうか	158
人間関係	119
その他	27
有効回答数	871

（その他の回答）

- ・何歳まで働かせてもらえるか
- ・フルタイムではない働き方と収入のバランス
- ・履歴書の書き方
- ・年金と農業だけでは収入が安定しない
- ・通勤や移動手段

⑥活動したくない理由（複数回答可）



すでに十分働いたから	93
経済的に余裕があるから	16
趣味や家族との時間を大切にしたいから	88
希望する職業がなかったから	6
希望する職業はあったが、就職できなかったから	2
体力・健康状態に不安があるから	77
時間をかけて、通勤したくないから	15
その他	24
有効回答数	321

（その他の回答）

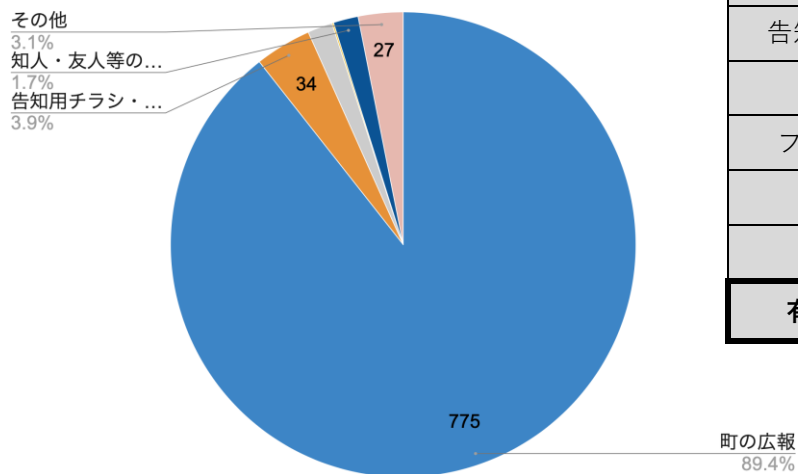
●自己の理由のため

- ・病気だから
- ・障害者のため
- ・やりたいこと（趣味）をしたい
- ・自営業のため仕事以外の活動をする余裕がない

●家族など他者の理由のため

- ・親の介護
- ・高齢者や孫の世話のため

問 5 情報を得る手段

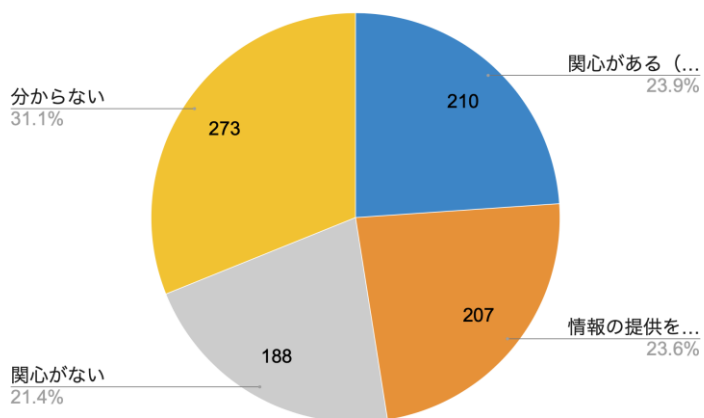


町の広報	775 (89.4%)
告知用チラシ・ポスター等	34 (3.9%)
ホームページ	15 (1.7%)
フェイスブック等の SNS	1 (0.1%)
知人・友人等の紹介	15 (1.7%)
その他	27 (3.1%)
有効回答数/有効回答率	867/91.3%

(その他の回答)

- ・ 情報を確認していない
- ・ 知らなかった

問 6 事業への関心



関心がある(活用してみたい)	210 (23.9%)
情報の提供を受けたい	207 (23.6%)
関心がない	188 (21.4%)
分からない	273 (31.1%)
有効回答数/有効回答率	878/92.4%

II. 調査の結果

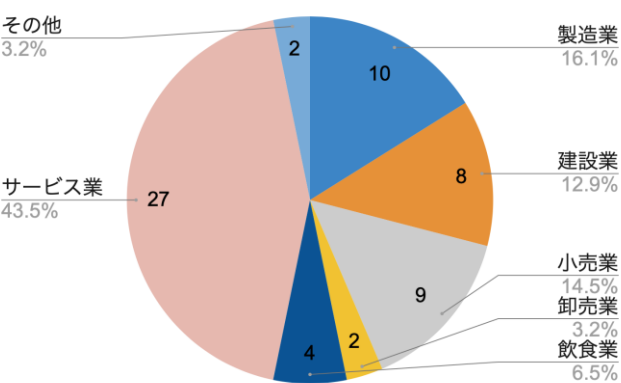
2. 事業者向けアンケート

【回答数/調査対象数（回収率）】

62 件 / 200 件 （31.0 %）

【回答集計結果】

問 1 回答者の属性

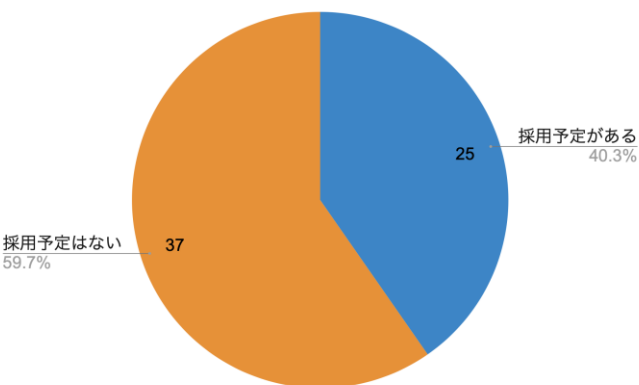


製造業	10 (16.1%)
建設業	8 (12.9%)
小売業	9 (14.5%)
卸売業	2 (3.2%)
飲食業	4 (6.5%)
サービス業	27 (43.5%)
その他	2 (3.2%)
有効回答数/有効回答率	62/100%

問 1 その他の質問および問 2、3 は割愛

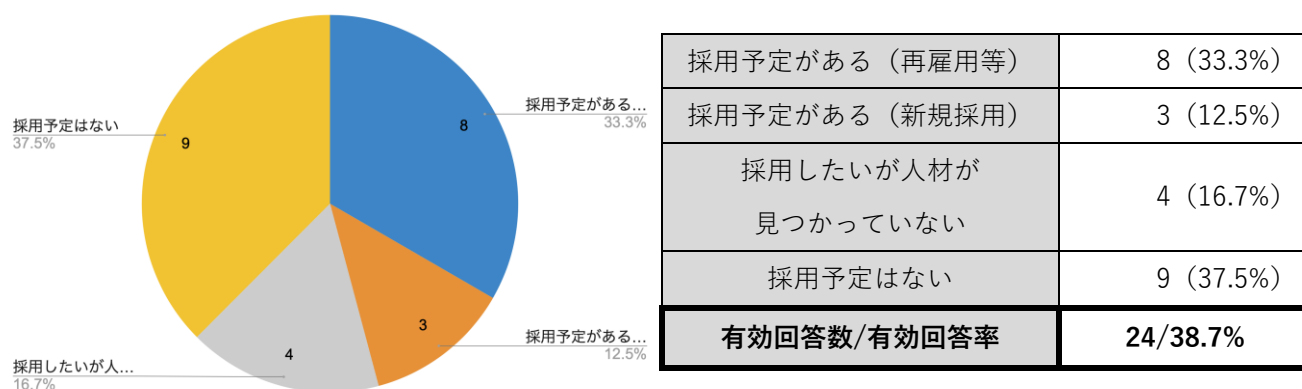
問 4 採用予定

①新規採用の予定

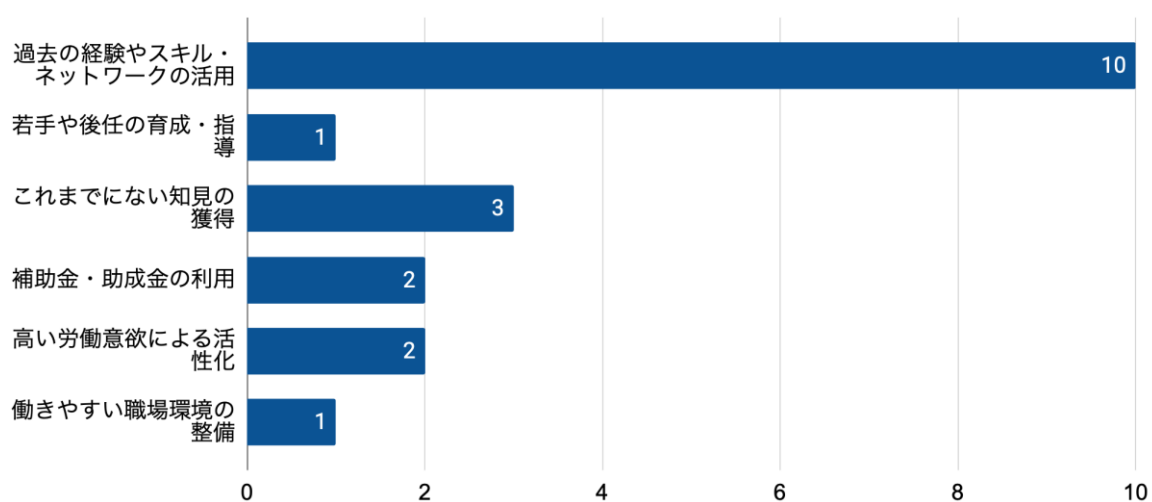


採用予定がある	25 (40.3%)
採用予定はない	37 (59.7%)
有効回答数/有効回答率	62/100%

②55 歳以上の人材の採用予定

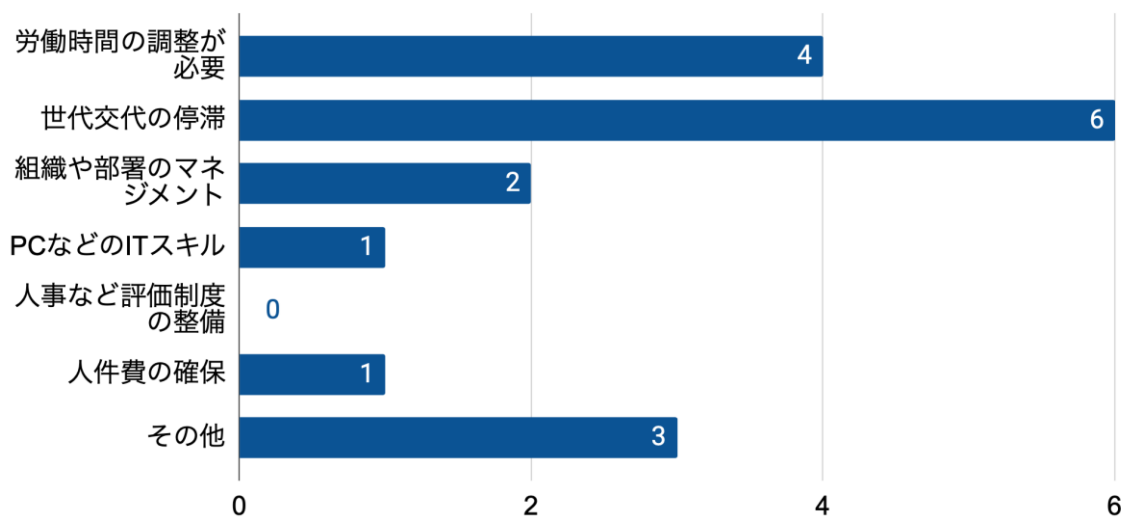


③55 歳以上の人材に期待すること（複数回答可）



過去の経験やスキル・ネットワークの活用	10
若手や後任の育成・指導	1
これまでになく知見の獲得	3
補助金・助成金の利用	2
高い労働意欲による活性化	2
働きやすい職場環境の整備	1
有効回答数	19

④55 歳以上の人材で不安に思うこと（複数回答可）

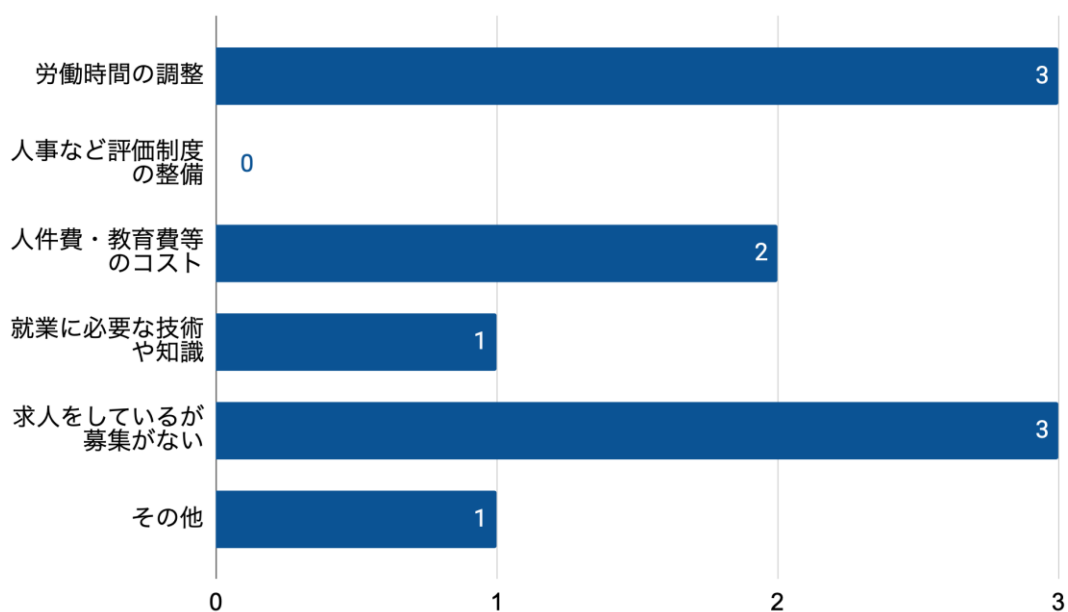


労働時間の調整が必要	4
世代交代の停滞	6
組織や部署のマネジメント	2
PC などの IT スキル	1
人事など評価制度の整備	0
人件費の確保	1
その他	3
有効回答数	17

（その他の回答）

- ・ 事故や怪我のリスク
- ・ 今までの経験によるエゴ

④55 歳以上の人材を採用するための条件（複数回答可）

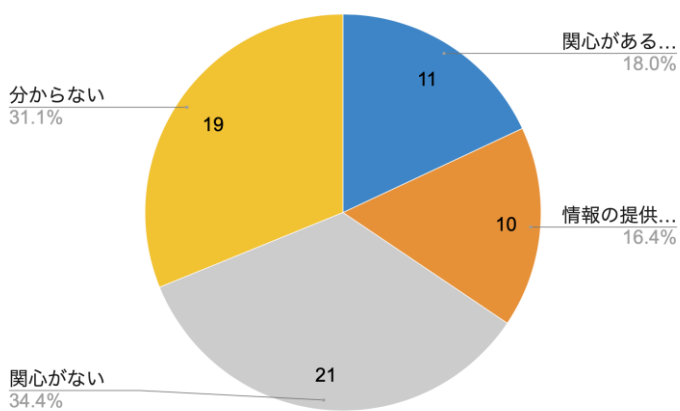


労働時間の調整	3
人事など評価制度の整備	0
人件費・教育費等のコスト	2
就業に必要な技術や知識	0
求人をしているが募集がない	3
その他	1
有効回答数	10

(その他の回答)

・これから求人の予定

問 5 事業への関心



関心がある(活用してみたい)	11 (18.0%)
情報の提供を受けたい	10 (16.4%)
関心がない	21 (34.4%)
分からない	19 (31.1%)
有効回答数/有効回答率	61/98.4%

総 括

今回の調査により、大きく３つの課題が明らかになった。

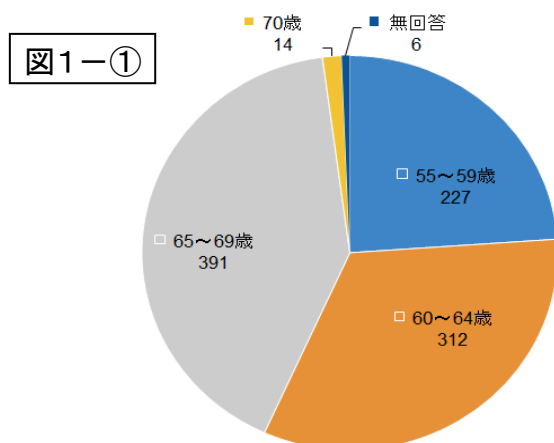
第一に高年齢者側の活躍する機会が不足していること、二つ目に事業者側の求人における困難があること、そして定年後に住民として地域の中で主体的に活動をしたい方への橋渡しができていないことである。まず高年齢者の活躍機会不足については、「働ける限りは働きたい」という希望が全体の３分の１を上回る結果となった。この前向きな気持ちに対し、雇用やボランティアなどを含めた様々な機会をこれまで以上に活用し、高年齢者自身がより長く活躍できるような環境の整備が必要である。特に、これまでの人生において培ってきた経験を活かしたいというニーズも多かったことから、軽作業や労働負荷の少ない単純労働にとどまらず、産業の担い手としての機会提供を積極的に進めていく必要がある。その産業（主に商工業）の役割を担う事業者にとっても、全国的な人手不足の傾向にある中で高年齢者の活用は喫緊の課題であるといえる。人材の募集をかけてもスムーズに採用に至っていない現状も垣間見えたことから、採用の直接的なサポートはもちろん、就業規則の整備や労働時間の細やかな調整など制度面での専門的な支援が求められていることがわかった。高年齢者の雇用延長や人件費・教育費も含め、事業者側には総合的な高年齢者の採用に向けた戦略の立案および求職者とのマッチングを実施していく。最後に地域活動への移行であるが、高年齢者のボランティアなどへの意識が高いことが今回の調査で明らかになった。すでに本調査の時点で積極的にボランティア活動などへ参画しているシニア世代がいる一方で、介護などの家庭環境の影響もあり具体的な行動に踏み出せていない姿も見受けられた。それぞれのペースに合わせながら、短い時間や日常の都合の合間をぬって小さな活動からでも地域に入っていくためのルートを紹介していく必要がある。また、ボランティアだけではなく、ビジネスとして起業することで地域課題を解決していく可能性もあることから、創業支援も効果が認められると思われる。

以上３つの課題を踏まえ、高年齢者が活躍できる地域づくりとして、各事業を並行してすすめていく必要があることをここに提案し、本調査の総括とさせていただきたい。

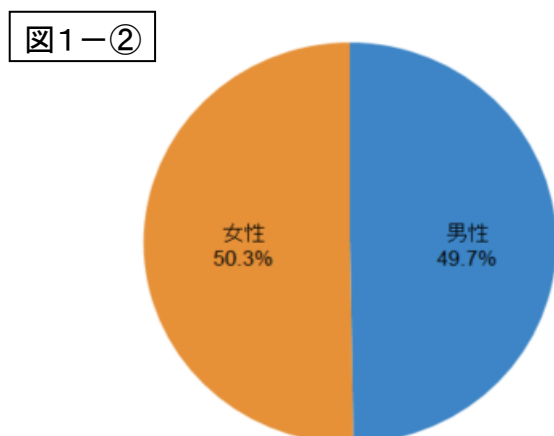
●アンケート調査結果について

幸田町内在住の 55 から 70 歳の男女 2000 人を対象に行ったアンケート調査結果(有効回答 950 件、年代別内訳は図 1-①、男女比は図 1-②参照)について以下のようにまとめた。

図1 年齢と性別(有効回答 950)



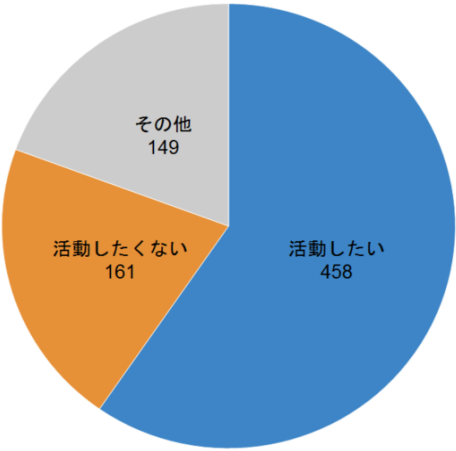
55～59 歳	227	24.0%
60～64 歳	312	33.1%
65～69 歳	391	41.4%
70 歳	14	1.5%
未記載等無効回答	6	0.6%
有効回答数・有効回答率	950	100.0%



男性	471	49.6%
女性	476	50.1%
未記載等無効回答	3	0.3%
有効回答数・有効回答率	950	100.0%

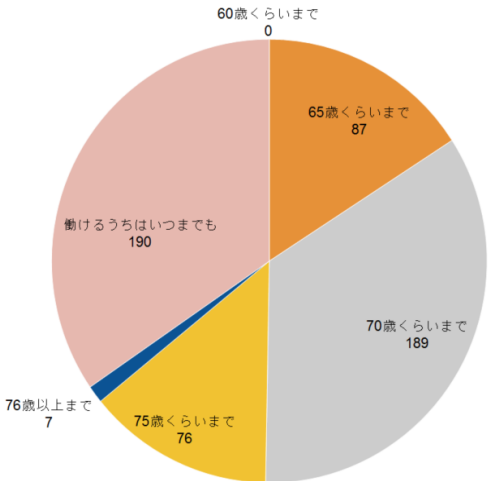
高年齢者の意識については、回答した 768 人のうち 59.6%が「定年後も活動したい(図 2)」、さらに「いつまで働きたいか」との問いに回答した 549 人中、34.4%が「70 歳くらいまで働きたい」、34.6%が「働けるうちはいつまでも働きたい(図 3)」と回答しており、定年後も労働意欲は高いことが伺える。この前向きな気持ちに対し、会社説明会、就活勉強会、ボランティア体験、相談会などのイベント、ホームページや情報誌による情報発信、情報発信や相談窓口、セミナースペースなどを備えた拠点整備などを通じて、雇用やボランティアなど様々な活動機会があることを、これまで以上に情報発信できる環境の整備が必要である。特に「定年後も活動したい」と回答した 761 人のうち 31.9%が「雇用延長で働きたい」、19.6%が「これまでの経験を生かして他社で働きたい」と答えている(図 5)。高年齢者が活躍できる社会環境づくりのためには、「高年齢者＝軽作業や労働負担の低い単純労働」という一般的なイメージを改め、産業の担い手としての労働機会の提供や企業の啓蒙も行っていく必要がある。

図2 定年退職後の活動(有効回答 768)



活動したい	458	59.6%
活動したくない	161	21.0%
その他	149	19.4%
有効回答数・有効回答率	768	100.0%

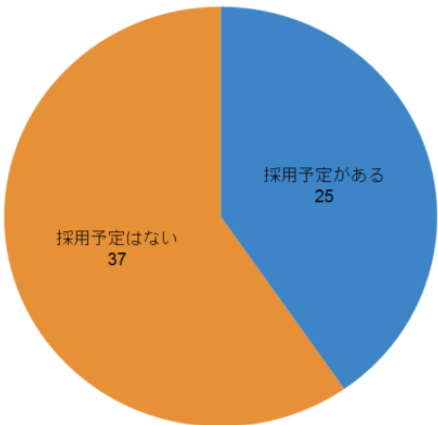
図3 いつまで働きたいか(有効回答 549)



60 歳くらいまで	0	0%
65 歳くらいまで	87	15.9%
70 歳くらいまで	189	34.4%
75 歳くらいまで	76	13.8%
76 歳以上まで	7	1.3%
働けるうちはいつまでも	190	34.6%
有効回答数・有効回答率	549	100.0%

また、その役割を担う事業者は、幸田町内の事業者向け調査(無作為抽出の 200 社に帳票を郵送)で回答が得られた 62 件中 40.3%が「55 歳以上の人材を採用予定」としている(図4)。

図4 高年齢者採用予定数(有効回答 62)

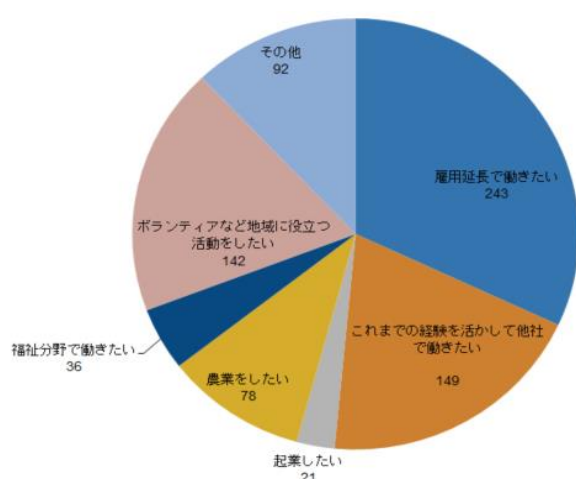


採用予定がある	25	40.3%
採用予定はない	37	59.7%
有効回答数・有効回答率	62	100.0%

しかしながら特に人口減少時代を迎え労働力確保が厳しくなっている業種にとっては、高年齢者の活用は喫緊の課題の一つであろう。新型コロナウイルス感染症の影響で、人材の流動化も予測され、募集をかけても、思うような採用ができていない事業者にとってはむしろチャンスでもある。相談会や説明会などを開催して採用の直接的なサポートをすることだけでなく、就業規則の整備や労働時間の細かな調整など制度面での専門的な支援も有効であると思われる。事業者・高年齢者の双方が納得のできる雇用を実現するための、高年齢者の採用に向けた総合的な戦略立案支援セミナー（採用戦略、広告改善、社内制度整備、意識改革、助成金活用など）の実施も有効である。

最後に地域活動への参加促進であるが、今回の調査で、定年後に「ボランティアなど地域に役立つ活動をしたい」と回答した人が18.7%おり（図5）、高年齢者のボランティア活動への関心が高いことが明らかになった。すでにボランティアに参加している方もいるが、具体的な活動に踏み出せていない方も多数おられるようだ。情報収集が必要になるが、それぞれのライフスタイルに合わせた、短時間や隙間時間を利用したり、気軽に参加できるような多様な活動があることを体験会や説明会を通じて紹介していく必要がある。また、ビジネスを通じて地域課題（例えば、農業、緑化美化、防災、防犯、育児など）を解決するという起業の可能性も十分にあることから、起業塾や相談会も効果があると思われる。

図5 やりたい仕事（有効回答 761）



雇用延長で働きたい	243	31.9%
これまでの経験を活かして他社で働きたい	149	19.6%
起業したい	21	2.8%
農業をしたい	78	10.2%
福祉分野で働きたい	36	4.7%
ボランティアなど地域に役立つ活動をしたい	142	18.7%
その他	92	12.1%
有効回答数・有効回答率	761	100.0%

以上3つの課題を踏まえ、令和2年度の本事業については高年齢者が活躍できる地域づくりのために、今後、同時並行的に推進すべきことを想定した各種の事業を実施する。（実施する事業内容については仕様書の通り）

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、個別相談会やセミナー等3密の可能性がある事業については厚生労働省の提示する指針の元、ソーシャルディスタンスやオンラインで実施するなど状況を確認しながら判断し実施する。